

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	第1回 建設ICT生産システム研究会 (CPD 番号 -)
委員会・研究会名	建設ICT生産システム研究会
日時	平成26年10月2日(木) 15:00~16:20
場所	岩手大学農学部 2号館
参加人数等	会員10名 (学生3名 傍聴)

活動内容

1.研究会の発足

予てより会員を募集しておりました建設ICT生産システム研究会が11名(本会員9名、共同研究者2名)でスタートしました。

本研究会は、建設ICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)を活用した合理的な生産システムについて地域の産・学・(いずれは官も視野に)の連携、地域・地元での技術強化及び技術検討を通じて、新技術による災害等への地域貢献を目標として発足しました。運営に当たっては、岩手大学農学部の井良沢教授を学識経験者として、村上支部長をオブザーバーとして参加をお願いしました。



2.研究会の内容

今回は第1回目の会合として、代表者と事務局の選出の後、研究会設置の経緯や規約の説明、ICTの現状についての報告がありました。今後のスケジュールとして、まずは昨年の災害現場を題材とした実証試験により災害復旧への活用性について検証し、来年4月の中間報告を目標にスタートすることとしました。

質疑応答では、国や県などの官側の参加があっても良いのではとの意見があり、その対応を検討することとしました。

3.今後の活動予定

約1年間、月1回程度を予定しています。このような研究会活動は例が少ないですが、新しい技術の一刻も早い普及と地域への貢献を目指して行きたいと思えます。

国土交通省の資料より

災害復旧に活用できるICT技術 国土交通省

測量の形態	主な技術	主な特徴
空中計測	航空リモートセンシング	大規模土砂災害、広域地盤沈下、異常気象の長期継続、夜間等の被災後の自然条件が悪く、被災地への立入が困難でも被災状況の把握が可能な技術
地上計測	航空レーザ測量 空中写真判読 衛星画像計測 3Dレーザー計測	山間地、崖、傾地、比較的狭いエリア、特殊地形の計測が可能 山間地、水中、樹地、離島等の地形条件が悪く、被災地への立入が困難でも被災状況の把握が可能な技術 衛星画像への活用に加え、高精度な地形や植生に基づいた災害発生予測や被災状況把握が可能 災害復旧事業申請等における平面・縦横断面の作成、数量算出、事業費算出を迅速に行うために必要な地形測量技術
水中計測	音響測深 レーザー測深	【迅速性・効率性が高い】 災害復旧事業申請等における平面・縦横断面の作成、数量算出、事業費算出を迅速に行うために必要な地形測量技術 【目標の測量精度は±10cm以上】 水中・海底地形や構造物を高精度に把握可能

(※ 活動状況の写真を貼り付けてください。)

建設ICT生産システム研究会 名簿

No.	氏名	登録部門	所属	備考
1	井良沢道也	建設	岩手大学	学識経験者
2	中澤 昭典	建設	東北エンジニアリング(株)	
3	平井 公康	建設	宮城建設(株)	
4	高橋 潤吉	建設(士補)	(株)伊藤組	
5	鈴木 浩行	建設	(株)昭和土木設計	副代表
6	牧野 仁	建設	(株)昭和土木設計	
7	安野 雅満	地質・環境	(株)タックエンジニアリング	代表
8	多田 信之	建設	(株)タックエンジニアリング	事務局
9	千葉 一博	※空間情報総括 監理技術者	(株)タックエンジニアリング	共同研究者 UAV・空間情報計測専門
10	原田 昌大	建設(士補)	(株)タックエンジニアリング	事務局 共同研究者 空間情報 計測・3次元データ解析専門
11	村上 功	建設	(株)昭和土木設計	オブザーバー